

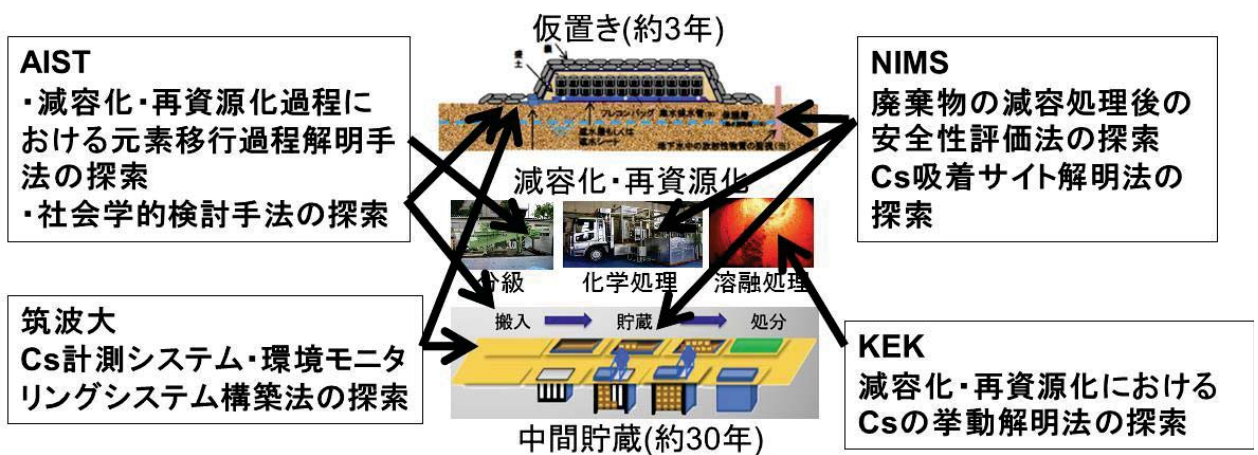
# 放射性物質による汚染土壌等の減容及び再資材化の方向性の検討

## 概要

福島県では、放射性物質による汚染土壌等の中間貯蔵が徐々に動き始め、汚染土壌の適切な処理が検討されている。本プログラムにおいて、それを科学的・技術的に支援すべく、先端材料科学等による汚染土壌のCs吸脱着機構の解明を基盤とした分級・焼却・焼結固化等による高度な減容、種々の廃棄物や減容処理物等に対する処分・再資源化技術の情報収集・検討・評価を行い、T I A中核4機関を中心に、産官学の分野横断的な知の集積を図る。

従来確立されていない材料科学・環境科学・地球科学・土壌科学・土木工学・システム工学等の分野融合を可能とする連携体制を築き、産官学単体では成しえない分野横断型の研究を展開し、さらに科学的知見と技術を現場のニーズとマッチングさせるための社会学的検討を並行して行うことにより、福島の復興に向けた科学的・技術的解決手段のシステム化を提案し、次なる研究・技術開発学術論を加速させる。

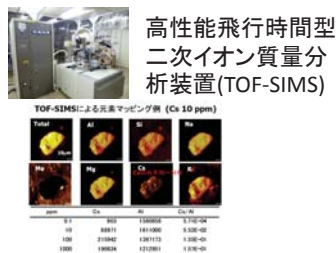
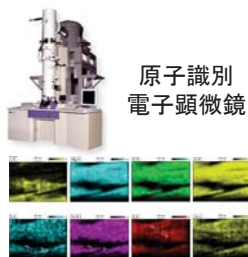
## 参画 T I A 中核4機関の関係



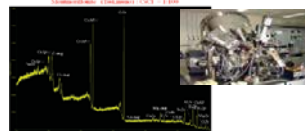
## 連携機関 (T I A 中核4機関以外も含む) の取り組み

放射性元素を含む汚染土壌等の減容処理物・再資源化材料の先端ナノ材料科学等による安全性の検討と情報収集

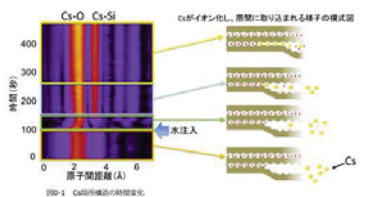
NIMS、KEKを中心に、日本原子力研究開発機構、金沢工業大学、千葉科学大学と共に取り組む。



ESCAによる状態分析



in-situ X線吸収スペクトル



## 汚染廃棄物等の減容法・再資源化の検討とその最適条件化・システム化への検討

AIST、NIMS、筑波大を中心に、国立環境研究所、宮崎大学、北海道大学大学院、農業・食品産業技術総合研究機構、電力中央研究所と共に取り組む。



ため池除染の現状

